

## 明治期の旧制中学における運動会の研究 (1)

—明治 33・34 年の愛知三中の運動会—

秦 真 人

### A study of Athletic meets in old system Junior High School during the Meiji era (1)

—the Athletic meets of Aich 3<sup>rd</sup> Junior High School in Meiji33・34 years—

Mahito Hata

キーワード:運動会 Athletic meets、旧制中学校 old system Junior High School、  
明治時代 Meiji era

#### はじめに

今日、国民体育大会を筆頭に日本で開催されている数々の総合スポーツ大会は、近代学校教育の中で実施されていた運動会がその歴史的基盤となっているといっても過言ではない。

わが国初の運動会は、1874(明治 7)年 3 月に海軍兵学寮でイギリス士官の指導のもとにおこなわれた「競闘遊戯会」がその端緒であると言われ、その後 1878(明治 11)年 5 月に札幌農学校(現:北海道大学)で「力芸」として、さらに 1883(明治 16)年に東京大学でおこなわれた「運動会」へと続く。そして、わが国の教育現場における「運動会が全国的に普及するのは、1884(明治 17)年以降のことであり、体操伝習所の卒業生によって中学校、師範学校、そして小学校へと下降・伝播していった」<sup>1)</sup>。

愛知県下において、運動会に関する記録として最初のものは、1886(明治 19)年 5 月 19 日付けの絵入扶桑新報の記事であろう<sup>2)</sup>とされている。その記事では明治 19 年 5 月 17 日に行われた葉栗郡前飛保村(現:江南市宮田町)にある三つの小学校の連合運動会の様子を伝えている。

続けて翌日の同紙の記事には、中島郡通信として、「旗取運動会 去十六日本郡下祖父江字沼砂漠に於て下祖父江学校はじめ近傍十八校

生徒の体操運動会の催ほしありたり今其概況を報せんに当日は兼て役員を定めし(中略)教員三十余名等にて運動生徒の数は七百二十八人午前十時に各生をして七隊とし整列して会場に入れば日比野氏祝詞を朗読し次で上牧学校の高等一級生川瀬幸吉答辞を朗読し畢つて矯正術徒手体操を実行し次に女子五十余名の女子体操あり右終りて又午後一時より旗取運動会を催したるに当日一等賞を得たるもの三十二名午後六時全く畢りたるが此日の見物人は実に夥多しく露店を張るもの三十余ヶ所近來稀有の賑合いにてありし」<sup>3)</sup>とあり、明治 19 年 5 月 16 日に行われた中島郡(現:稲沢市祖父江町付近)の 18 小学校の連合体操運動会ならびに旗取運動会の様子を伝えている。これを見る限り、種目としては旗取運動などを中心に縄引競争などの競技が行われたようであるが、その参加者は 700 名を越え、30 以上の露店が出店されるほどの盛況をみせていたことがうかがわれる。

愛知県下の旧制中学校では 1893(明治 26)年 11 月 5 日に、愛知県第一中学校(現:旭丘高校、以下「愛知一中」)の校庭で初めて行われた運動会がその端緒であろう。この時期は種目数も少なく、試行錯誤の上での運動会実施であり、特に撃剣、柔術、ベースボール、器械体操などを種目の中に配置し、エキビション的に時間を

費やしているのうかがえる<sup>4)</sup>。

本研究ではこのような愛知県の旧制中学に焦点をしばり、明治期に実施されていた運動会の模様を残存している史料の検討から、その実態を明らかにしていこうとするものである。

特に今回は現在の愛知県立津島高等学校の前身である愛知県第三中学校（以下「愛知三中」）の事例を、現存する当時の手書きの史料、運動会「記録」の分析から進めていく。

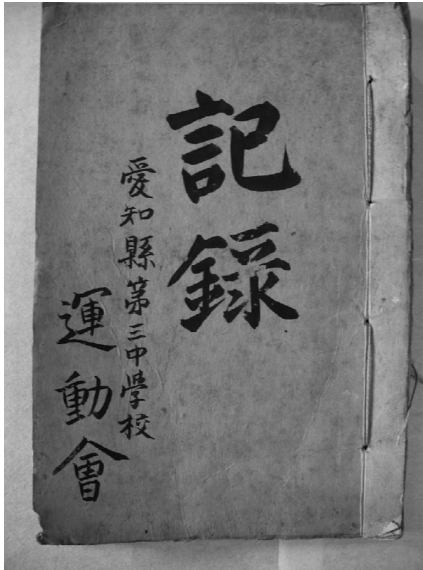


写真 1 愛知三中運動会「記録」表紙

## 1. 愛知三中における運動会

### （1）「運動会」の組織化

愛知三中の史料の中に「愛知県第三中学校運動会仮規則」という記述がある。この記事から運動会の組織化の過程の一端がうかがえるので、ここに示しておく。

愛知県第三中学校運動会仮規則

- 第一條 本会ハ愛知県第三中学校職員及生徒ヲ以テ組織ス
- 第二條 本会ハ會員協力シテ身体ヲ強壯ニシ志氣ヲ振起シ校風ノ完成ヲ期スルヲ目的トス
- 第三條 會員ヲ分チテ名特別、通常ノ二種トス  
本校職員ヲ特別會員トシ本校生徒ヲ通常會員トス
- 第四條 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

会 長 一人 会務ノ総理ニ任ス

本校々長ヲ推ス

副会長、一人 会長ノ補佐ニ任ス

特別會員中ニ就キテ会長之ヲ委嘱ス  
理事、三人 会務ノ処理ニ任ス

特別會員中ニ就キテ会長之ヲ委嘱ス  
委員各組三人 本会ノ実務ニ任ス

通常會員中ニ就キテ理事之ヲ委嘱ス  
書記一人 本会ノ文書會計事務ヲ処理ス

本校書記ニ委嘱ス

役員ノ任期ハ一学年間トス

第五條 通常會員ノ会費ハ一ヶ月金五錢トシ毎月十日マテニ會計係ニ納付スベキモノトス

特別會員ハ毎月応分ノ寄付金ヲナスベキモノトス

第六條 本会行フ所ノ運動ハ左ノ如シ

遠足 球技 擊劍 柔道

春秋二期ニ大会ヲ開キ陸上運動ヲ行フ  
但時宜ニヨリ臨時大会ヲ開クコトアルベシ 以 上<sup>5)</sup>

というものである。全国的にいずれの旧制中学でも校友会規則<sup>注1)</sup>というものが存在するが、それよりも先に愛知三中ではまず「運動会」という組織が作られたことがうかがわれる。そして、競技会としての運動会実施にあたって第六條のように春秋の年2回陸上運動を行う大会を開催する旨を成文化した規程があったことは注目に値すると考える。これに関しては他の中学でどうであったかは、今後の調査で追究していきたい。

そして競技会としての、第一回運動会に参列した来賓についての記述では、「当日来賓者トシテ本県第三課属堀内政甚本郡長、同郡視学県参事會員加藤喜右衛門当町長、初メ町會議員郡学務委員郡参事會員、当町各署長、中尉中島奥高等小学校長、初メ撰手三名附添耆名、本郡三高等小学校撰手三名ヅツ、付添耆名ヅツ、各校長并ニ女子高等小学校長、当町各尋常小学校長以上八十有余名」<sup>6)</sup>とある。ここから、地方の一中学校にて運動会を開催するにあたり、百名近くの来賓を集めるということは、当時この地

域の一大行事として位置づけられていたことがうかがわれる。

愛知三中の史料の中には予算規模についての記録は残されていないので、ほぼ同時期の愛知一中における史料を参考までに参照してみる。明治34年、愛知一中では春秋の二回の運動会が行われているが、ここに費やした経費は400円14銭3厘5毛であったと記録されている。これは当年の愛知一中「校友会」総支出額である1,580円19銭3厘5毛の一部として計上されている<sup>7)</sup>。単純に一回分として算出すると、一回の運動会で200円程度の経費が使われたことになる。したがって同規模の経費が愛知三中においても、費やされたのではないかと推測される。

さらに、寄付行為として、  
「本会へ寄附人名

壱 円	名古屋市	岡田萬承
	四日市	三丸洋服店
赤白五布幕壱帳	当町	松平光治郎
四円五拾銭	〃	松平賢之助
	〃	高津貫治
	〃	町会議員中」 <sup>8)</sup>

等が記載されている。

このような財政的背景のもとで、愛知県下の旧制中学校の運動会が挙行されたということが、明らかになった。

## (2) 運動会種目について

次に、明治33年と34年に愛知三中で行われていた運動会の種目がどのようなものであったのかを見ていきたいと思う。

1900(明治33)年11月3日に愛知三中で行われた、当校初の第一回運動会で施行した競技の種類は次の如くである。

第一回	二町競走(三回)
第二回	一人一脚競走(二回)
第三回	二町競走(三回)
第四回	スプーン競走(三回)
第五回	二人三脚(二回)
第六回	スプーン競走
第七回	提灯競走(三回)
第八回	一分間競走(二回)
第九回	提灯競走
第十回	三人四脚競走(一回)

第十一回	四町競走(一回)
第十二回	服装競走(二回)
第十三回	千鳥競走(二回)
第十四回	各高等小学選手競走
第十五回	二町競走
第十六回	一人一脚競走
第十七回	スプーン競走
第十八回	二人三脚競走
第十九回	提灯競走
第二十回	一分間競走
第廿一回	来賓競走
第廿二回	職員競走
第廿三回	服装競走
第廿四回	千鳥競走
第廿五回	少年競走
第廿六回	委員競走
第廿七回	臨時増少年競走 <sup>9)</sup>

ここで、第何回というのは演技順を示しており、「第一回二町競走(三回)」とは第一種目の二町競争(約220m走)は3レース行ったと読み取ることができる。

続いて、翌1901(明治34)年の10月27日に行われた第二回秋季運動会挙行順序も示しておく。ただし、第一回とは表記の仕方が異なるのは、史料の表記をそのまま記したためである。

一	三百ヤード
二	
三	
四	提灯競走
五	
六	片脚競走
七	百ヤード
八	同
九	同
一〇	一人一脚競走
一一	スプーン競走
一二	同
一三	運算競走
一四	同
一五	スプーン競走
一六	同
一七	クラスリレー
一八	同
一九	同

- 二〇 旗拾競走
- 二一 同
- 二二 戴囊競走
- 二三 三百ヤード競走
- 二四 戴囊競走
- 二五 三百ヤード競走
- 二六 武装競走
- 二七 二人三脚競走
- 二八 同
- 二九 綱引
- 三〇 三百ヤード競走
- 三一 同
- 三二 四百五十ヤード競走
- 三三 提灯競走
- 三四 同
- 三五 クラスリレー
- 三六 同
- 三七 同
- 三八 高飛
- 三九 巾飛
- 四〇 旗拾競走
- 四一 障害物競走
- 四二 同
- 四三 旗拾競走
- 四四 障害物競走
- 四五 旗拾競走
- 四六 障害物競走
- 四七 千鳥競走
- 四八 同
- 四九 母衣曳競走
- 五〇 同
- 五一 同
- 五二 高等小学撰手競走
- 五三 六百ヤード競走
- 五四 九百ヤード競走
- 五五 来賓競走
- 五六 職員競走
- 五七 角力
- 五八 源平球技
- 五九 源平球奪<sup>10)</sup>

これらの運動会種目だけを見ると愛知三中では、わずか一年の間にいかに大きな変化があったかがうかがわれる。特に顕著なのは第一回が

15 種目、27 回(比較のため表記を変えると 40 回)であったのに対し、一年後の第二回では 27 種目、59 回に増加していることであろう。また、距離表記の単位も「町(約 110m)」から「ヤード(0.9144m)」に変わっていることも注目に値する。

平田らが明治期の運動会プログラムの分析から運動会の展開時期を 3 つの期に区分しており、第一期は明治 18 年から 20 年、第二期は明治 21 年から 33 年、第三期が明治 34 年から 45 年までと区切っている。これによると、第二期では一期と比べると種目数が増えてより多くの生徒が参加できるようになったことと、体操系種目が減少し、レクリエーション的な種目が増えたことを指摘している。そして、第三期にはレクリエーション的種目が多彩になるとともに、競争色が強い軍事教練の要素の種目が依然として実施されていくとしている<sup>11)</sup>。

愛知三中の事例をこれに当てはめると、明治 33 年と明治 34 年がまさに第二期から第三期への移行の年であり、正確には多少のずれはあるものの二つの時期の対比がきる格好の史料であるといえよう。

### (3) 運動会の賞品について

当時の運動会では学校行事にも関わらず、賞品がつきものである。愛知三中の史料の中には賞品についての詳細な記録も残されているので、少々長い引用になるが、以下にそれを紹介する。



写真 2 種目回数及賞品

1) 第一回運動会 (明治 33 年 11 月 3 日)

競技回数及賞品

・二町競走 (計 7 回)

- 一等 金貳拾八錢 メンネルシャツ壺  
 二等 金貳拾錢 八錢五厘 猿又壺  
 拾壺錢五厘 三錢八厘 白半紙三帖  
 三等 金拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖

・一人一脚競走 (計 3 回)

- 一等 金貳拾八錢 綿練シャツ壺  
 二等 金貳拾錢 八錢五厘 猿又壺  
 三錢八厘 白半紙三帖  
 三等 金拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖

・スプーン競走 (計 5 回)

- 一等 金拾貳錢 六錢五厘 靴下壺  
 五錢五厘 罽入洋手帳壺  
 二等 金拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖  
 三等 金七錢六厘 三錢八厘 白半紙二帖  
 四等 金六錢 画学紙大判貳枚  
 五等 金三錢五厘 雜記手帳壺冊

・二人三脚競走 (計 3 回)

- 一等 二十錢 メレンス、ハンカチ壺  
 二等 拾五錢 六錢五厘 靴下壺  
 八錢五厘 猿又壺

・提灯競走 (計 5 回)

- 一等 金拾貳錢 六錢五厘 靴下壺  
 五錢五厘 罽入洋手帳壺  
 二等 金拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖  
 三等 金七錢六厘 三錢八厘 白半紙二帖  
 四等 金六錢 三錢 画学紙二帖  
 五等 金參錢五厘 三錢五厘 雜記帳壺冊

・一分間競走 (計 3 回)

- 一等 金貳拾八錢 綿練シャツ壺  
 二等 金貳拾錢 八錢五厘 猿又壺  
 三錢八厘 白半紙三帖  
 三等 金拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖  
 四等 六錢五厘 靴下  
 五等 五錢五厘 手帳

・三人四脚競走 (1 回)

- 金貳拾錢 八錢五厘 猿又

三錢五厘 白半紙三帖

・四町競走 (1 回)

- 一等 四拾七錢 支那カバン壺  
 二等 貳拾八錢 綿練シャツ壺  
 三等 貳拾錢 八錢五厘 猿又  
 三錢八厘 白半紙三帖  
 四等 拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖  
 五等 五錢五厘 手帳壺

・服装競走 (計 3 回)

- 一等 貳拾八錢 綿練シャツ壺  
 二等 貳拾錢 八錢五厘 猿又壺  
 三錢八厘 白半紙三帖  
 三等 拾錢三厘 六錢五厘 靴下壺  
 三錢八厘 白半紙壺帖  
 四等 六錢五厘 靴下壺足  
 五等 三錢五厘 手帳壺冊

・千鳥競走 (計 3 回)

- 金六錢五厘 靴下壺足ヅツ壺回十一人

・海東海西中島郡 各高等小学撰手競走

- 一等 五拾九錢 支那カバン壺  
 二等 四拾五錢 綿フランシャツ壺  
 三等 貳拾九錢五厘  
 二十錢 メレンスハンカチ壺  
 九錢五厘 靴下壺  
 四等 拾八錢七厘 三錢八厘 白半紙三帖  
 三錢五厘 雜記帳二冊  
 五等 拾五錢 六錢五厘 沓下壺  
 八錢五厘 猿又壺

- 六等 拾壺錢五厘 三錢 画学紙貳枚  
 五錢五厘 洋手帳壺

・来賓競走

- 一等 金五拾四錢 蛇ノ目傘壺  
 二等 金三拾九錢 高木履前靴付壺  
 三等 金三拾錢 大花瓶壺  
 四等 金貳拾錢 メレンスハンカチ壺

・職員競走

- 一等 金三拾壺錢 正宗酒貳瓶  
 白袋壺  
 二等 金貳拾八錢 水差し壺  
 三等 金貳拾參錢 三ツ組杯壺組  
 四等 金貳拾貳錢 正宗酒壺瓶  
 五等 金拾四錢 爛德利貳本

・少年競走

- 一等 金貳拾四銭 白シャツ壱
- 二等 金拾三銭 六銭五厘 靴下貳
- 三等 金拾銭 六銭五厘 靴下壱  
三銭五厘 手帳壱
- 四等 金五銭五厘 手帳壱冊
- 五等 金三銭五厘 手帳壱冊
- 六等 金三銭五厘 手帳壱冊

・委員競走

- 一等 四拾七銭 本箱壱個
- 二等 貳拾九銭五厘  
二十銭 メレンス壱  
沓下壱
- 三等 拾六銭五厘 十銭 ハンカチ壱  
六銭五厘 靴下壱
- 四等 九銭五厘 三銭 ハンカチ壱  
六銭五厘 沓下壱
- 五等 七銭六厘 白半紙貳状
- 六等 三銭五厘 雑記帳壱冊

・臨時増少年競走

- 一等 拾三銭 沓下貳足
- 二等 九銭五厘 白袋壱ヶ
- 三等 六銭五厘 沓下壱足
- 四等 五銭五厘 手帳壱冊<sup>12)</sup>

この記録を見ると、たとえば「二町競走 一等 金貳拾八銭 メネルシャツ壱、二等 金貳拾銭 八銭五厘 猿又壱 拾壱銭五厘 三銭八厘 白半紙三帖」とあるのは、二町競走の一位の者に賞金 28 銭と綿練のシャツ一枚、二位の者に賞金 20 銭と 8 銭 5 厘相当の猿又一枚と、3 銭 8 厘の白半紙を三帖で 11 銭 5 厘相当分が贈られたというように解釈できる表記である。しかしよく見てみると、どの競技も後の金額を足すと前の金額になることから、一位に 28 銭相当の綿練のシャツ一枚、二位に合計 20 銭相当（8 銭 5 厘の猿又一枚と 3 銭 8 厘の白半紙を三帖で小計 11 銭 5 厘相当分を足して）の賞品が贈られたというように理解することができる。この時代にいくらなんでも、これほどの賞金を贈ったとは考えにくいので、「金貳拾八銭」とは賞品の代金 28 銭を示したものであろう。

続けて、第二回の記録も見ていく。

2) 第二回秋季運動会（明治 34 年 10 月 27 日）

競技回数及賞品

・三百ヤード競走 七回

- 一等、絞り兵児帯 代金貳拾参銭
- 二等、風呂敷 同 拾六銭
- 三等 靴足袋二ツ 同 拾貳銭

・提灯競走 四回

- 一等 鼠色風呂敷及靴足袋一ツ宛  
同 拾五銭
- 二等 靴足袋二ツ宛 同 拾貳銭
- 三等 靴足袋一ツ 同 八銭

・片脚競走 一回

- 一等 シャツ 同 貳拾銭
- 二等 サルマタ 同 拾銭

・百ヤード競走 三回

- 一等 シャツ 代金貳拾銭
- 二等 靴足袋二ツ宛 同 拾貳銭
- 三等 靴足袋一ツ宛 同 八銭

・一人一脚競走 一回

- 一等 シャツ 同 貳拾銭
- 二等 サルマタ 同 拾銭

・スプーン競走 四回

- 一等 風呂敷及靴下 同 拾五銭
- 二等 靴下二ツ宛 同 拾貳銭
- 三等 靴下一ツ宛 八銭

・運算競走 二回

- 一等 風呂敷、靴下 同 拾五銭
- 二等 サルマタ 同 拾銭
- 三等 筆記帳 同 五銭

・クラスリレー 六回

- サルマタ総計二十四 同 拾銭宛

・旗拾競走 五回

- 一等 絞り兵児帯 同 貳拾三銭
- 二等 赤風呂敷及ハンケチ 同 拾六銭
- 三等 靴足袋二ツ 同 拾貳銭

・載囊競走 二回

- 一等 シャツ 同 貳拾銭
- 二等 靴足袋二ツ宛 同 拾貳銭
- 三等 靴足袋一ツ宛 同 八銭

・武装競走 一回

- 一等、絞り兵児帯 同 貳拾三銭
- 二等、風呂敷及ハンケチ 同 拾六銭
- 三等、靴下二ツ宛 同 拾貳銭



- ・二人三脚競走 四回
  - 一等、風呂敷及靴下 同 拾五銭
  - 二等、サルマタ 同 拾銭
  - 三等、筆記帳 同 五銭
- ・四百五十ヤード競走 一回
  - 一等、ハンケチ半ダース 同 貳拾五銭
  - 二等、シャツ 同 貳拾銭
  - 三等 靴足袋二ツ 同 拾貳銭
  - 四等 靴足袋一ツ 同 八銭
- ・高飛 一回
  - 一等 シャツ 同 貳拾銭
  - 二等 風呂敷及靴下 同 拾五銭
- ・巾飛 一回
  - 一等 シャツ 同 貳拾銭
  - 二等 風呂敷及靴下 同 拾五銭
- ・障害物競走 四回
  - 一等 支那カバン 同 六拾銭
  - 二等 シャツ 同 参拾銭
  - 三等 風呂敷及靴下 同 拾五銭
  - 四等 サルマタ 同 拾銭
  - 五等 風呂敷 同 六銭
- ・千鳥競走 二回
  - 赤、白各九人宛 靴足袋 (総計十八足) 同 八銭宛
- ・母衣曳競走 三回
  - 一等 紋り兵児帯 同 貳拾三銭
  - 二等 風呂敷ハンケチ 同 拾六銭
  - 三等 靴下二ツ宛 同 拾貳銭
- ・各高等小学校競走 一回
  - 二等 運動シャツ上下組 同 五拾銭
  - 壱等 袴地 同 壱円
  - 三等 白棒絞シャツ 同 貳拾貳銭
  - 四等 風呂敷、ハンケチ 同 拾六銭
  - 五等 靴下二ツ 同 拾貳銭
- ・六百ヤード競走 一回
  - 一等 支那カバン 同 五拾銭
  - 二等 モモヒキ (メリヤス) 同 参拾銭
  - 三等 靴下及風呂敷 同 拾五銭
  - 四等 サルマタ 同 拾銭
  - 五等 風呂敷 同 六銭
- ・九百ヤード競走 一回
  - 一等 支那カバン 同 六拾五銭
  - 二等 メリヤスシャツ 同 参拾銭
  - 三等 シャツ 同 貳拾銭

- 四等 風呂敷及靴下 同 拾五銭
- 五等 サルマタ 同 拾銭
- ・来賓競走 一回
  - 一等 メリヤスシャツ 同 五拾銭
  - 二等 同 モモヒキ 同 参拾銭
  - 三等 同 シャツ 同 貳拾銭
- ・職員競走 一回
  - 一等 ハンケチ (半ダース) 同 貳拾五銭
  - 二等 シャツ 同 貳拾銭
  - 三等 サルマタ 同 拾銭
- ・角力 靴下 一ツ宛 同 八銭
- ・源平球技 一回 (一年生)
- ・源平球奪 一回 (二年生)
- 各柿<sup>13)</sup>

ここで、第二回の運動会 (明治 34 年) の記録では「百ヤード競走 三回 一等 シャツ 代金貳拾銭」とあるのは、100 ヤード競走で一位だった者に代金 20 銭相当のシャツが贈られたと読取ることができるので、第一回の運動会も同様であったと考えてよいであろう。

賞品について愛知四中の運動会『報告』の中では、「当日賞品を得しもの数多あれどもあまり煩しければもらしぬ」<sup>14)</sup>とその記載が無かったように、このような詳細な記録が残されていることは非常に珍しいといえる。

何分、本史料は手書きの崩し字体で記載されていることもあり、正確に読みとることが難しいが、これらを見ると実に多彩な賞品が授与されていたことに驚かされるとともに、それらが当時の世相を強く反映しており、当時の物価を把握することができる非常に貴重な記録であると考ええる。

## おわりに

以上のように、明治 33 年・34 年の愛知県第三中学校において開催された運動会の事例を見てきた。種目については数、内容とも年々と変化していく時期であったことがこの史料からも十分うかがわれた。また、運動会開催の背景や愛知三中独自の特徴をも見ることができた。

全国的に見て、当初の運動会は明らかに学校体育奨励の施策として始まったのであったが、

その後急速に娯楽化していく。しかしながら、「学校のなかに囲い込まれた運動会は、連合運動会から各学校単位の運動会へと地域的に狭まりながら、それはいつそう地域と結びつきを強めるものとなった。そうして運動会は身体の規律的訓練の成果を展覧するという最初の体操演習会の意味を残しつつ、運動会が持つ娯楽性・祝祭性に支えられながら、それぞれの時代の思潮を反映してその内容を豊富にしながら、春秋の季節に循環する日本の学校の風景として欠くことのできない行事、また学校・子ども・地域を結びつけた学校文化となっていくのである」<sup>15)</sup>と木村が述べているように運動会が果たしてきた歴史的意義は大きいものがあったということが、今回の愛知三中の史料からもうかがえる。

今後は、別の旧制中学の事例を取上げながら検討を進めていきたいと考える。

## 引用・参考文献

- 1) 入江克己(1999)近代天皇制と明治神宮競技大会『運動会と日本近代』青弓社, 161
- 2) 40周年記念実行委員会(1989)『愛知陸上競技協会尾張支部四十周年記念誌』愛知陸上競技協会尾張支部, 5-6
- 3) 絵入扶桑新聞, 1886.5.20, 朝刊
- 4) 須永詮太郎(1910)校友会各部沿革史○陸上運動『学林 第六十九号』愛知県第一中学校, 一誠社, 2
- 5) 愛知県第三中学校『運動会記録』1900, 1-4
- 6) 同上, 13-14
- 7) 愛知県第一中学校『学林 第五十四号』一誠社, 1902, 183
- 8) 前掲書『運動会記録』, 14
- 9) 同上, 4-13
- 10) 同上, 18-20
- 11) 平田宗史(1990)わが国の運動会の歴史、福岡教育大学紀要、39
- 12) 前掲書『運動会記録』, 4・13
- 13) 同上, 21-29
- 14) 愛知県第四中学校『校友会誌 第四号』参陽印刷所, 1901, 38-39
- 15) 木村吉次(1999)明治政府の運動会政策『運動会と日本近代』青弓社, 152

注 1) 校友会規則の例として、愛知四中のものを参照  
豊橋中学時習館校友会規則

- 第一條 本会ハ愛知県豊橋中学時習館校友会ト称ス
- 第二條 本会ヲ愛知県豊橋中学時習館ニ置ク
- 第三條 本会ノ目的ハ主トシテ交義ヲ厚ウシ智識ヲ練磨シ且身体ニ強健ニシ活発有為ノ精神ヲ養成シ善美ノ校風ヲ興サントスルニアリ

- 第四條 本会ハ愛知県豊橋中学時習館職員職員タリシ者生徒及卒業生ヲ以テ組織スルモノトス
- 但シ在學生徒ヲ第二種通常會員卒業生ヲ第一種通常會員トシ職員及職員タリシ者ヲ特別會員トナス
- 第五條 本会ヲ別チ左ノ三部トシ左ノ事項ヲ行フ
- (ア) 談話部 毎月一回各各級ニ於テ談話会ヲ開会ス
- (イ) 運動部 野球柔術撃剣ノ三部ニ分チ通常會員ハ三技中必ズ一技以上行フベシ
- 但第一年級入学者ハ第一小期ニ志望ノ遊技ヲ撰定スベシ
- (ウ) 編纂部 毎年二回校友会誌ヲ発刊ス
- 第六條 本会ニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、会長一名館長ヲ推薦ス
- 本会一切ノ事務ヲ総理ス
- 一、副会長一名本校主席教諭ヲ推戴ス
- 会長ヲ補佐ス
- 一、会計一名本校職員中ヨリ会長之ヲ指命ス
- 本会ノ会計ヲ整理ス
- 一、部長各部一名トシ本校職員中ヨリ会長之ヲ指命ス
- 会長ニ從ヒ各部ヲ監督シ其事務ヲ処理ス
- 一、委員下ノ如ク分ツ
- 談話部五名通常會員ヨリ互撰ス
- 編纂部五名通常會員ヨリ互撰ス
- 野球部七名部員ヨリ互撰ス
- 柔道部五名部員ヨリ互撰ス
- 撃剣部五名部員ヨリ互撰ス
- 庶務委員各組ヨリ一名宛互撰ス
- 各部長ニ從ヒ其任部ノ事務ヲ掌ルモノトス
- 但シ庶務委員ハ重ニ会計主任補佐シ事宜ニヨリ全会ノ事ニ興ルモノトス
- 第七條 就任期限ハ部長編輯部委員ハ一ヶ年トシ其他ハ壱学期間トシ各其始メニ於テ之レヲ定ム
- 第八條 本会ノ維持ハ寄附金及通常會員ノ会費トヲ以テス
- 但シ第一種通常會員ハ一ヶ年会費金貳拾錢トシ二回ニ納付スルモノトシ第二種通常會員ハ一ヶ月会費金七錢トシ毎月納付スルモノトス
- 第九條 本会ハ毎年二回第二第三学期ノ始メニ於テ總會ヲ開クヘシ
- 但シ事情ニヨリ臨時開会スルヲ得
- 第十條 本会則ハ總會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ賛否ニヨラズンバ変更スル事ヲ得ズ

明治 32 年 12 月「校友会誌 第 5 号」

愛知県第四中学校 p.67-69